

2021(令和3)年度 部局マニフェスト

～私たちの組織使命と目標～

部局名	上野総合市民病院
役職	副院長
氏名	松田克彦
2021(令和3)年度の抱負	新型コロナウイルス感染対策を徹底し地域医療を守ります。



業績目標の達成状況 5. 先進的な取り組みを行い、成果があった 4. 達成水準を上回る成果があった 3. 業績目標を達成した 2. 取り組んだが、業績目標を達成しなかった 1. 業績目標に取り組まなかった
--

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段
◎部局目標1	病院経営の安定化	〈現在の状態〉 第2次市民病院改革プラン(2017年度～2020年度)の目標であった「基準外繰入金なしで赤字から脱却」を2020年度に達成した。 ↓ 〈達成目標〉 基準外繰入金に頼らず、基準内繰入金(5億24百万円)だけで経営を行う。キャッシュフローは8億円以上を維持する。 ※目標が達成した状態 医療提供体制の向上に必要な医療機器の更新や施設・設備の改修、職員の各種研修への参加等を積極的に行う財政的な余裕が生まれ、医療レベルが向上する。	・職員の経営意識と危機意識の向上 ・新たな施設基準の届け出とDPC機能評価係数の引き上げ ・コスト削減
市民が安心できる医療を持続的に提供するため、財政の健全化に努め、新型コロナウイルスの流行下でも経営体質を強化する。		※目標が達成した状態 医療提供体制の向上に必要な医療機器の更新や施設・設備の改修、職員の各種研修への参加等を積極的に行う財政的な余裕が生まれ、医療レベルが向上する。	
◎部局目標2	常勤・非常勤医師の確保	〈現在の状態〉 常勤医師は23名で、さらに総合診療科、内科系(一般内科、循環器、腫瘍)、泌尿器科、脳神経内科、放射線科、麻酔科の常勤または非常勤医師の確保が望まれる。 ↓ 〈達成目標〉 2名以上の医師を確保する。 ※目標が達成した状態 医療提供体制がより充実する。	・三重大学、関西医科大学、滋賀医科大学の各医局との連携 ・新規の寄附講座の設置
病院運営のベースとなる医師の確保に努め、病院の診療能力の向上を図る。		※目標が達成した状態 医療提供体制がより充実する。	

達成状況(自己評価)	理由
4	新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少が長引いたことなどにより、当院の診療収入は2月末時点で昨年同時期より約3.2%の増加に留まった。 このためコロナ関係の国・県補助金の確保に努め、約4億円の交付を受けることが出来た。 11月から「検体検査管理加算Ⅳ」を取得できたので、年間ベースで約1.1千万円の増収が見込める。コスト削減の面では、ガス供給契約について、11月以降、年間ベースで約200万円の削減を実現した。 これらにより、基準内繰入金だけで黒字決算の見込みとなり、キャッシュフローも2月末で約12億円となり、目標を達成した。
3	常勤医師については、年度中に2名が退職したが、確保に努めた結果、あらたに2名を確保することが出来た。また、令和4年度からの外科医1名と消化器内科医1名の増員につなげた。 令和5年度からの総合診療医常勤派遣に向け、関西医科大学に「総合診療医学講座(地域医療学)」をあらたな寄附講座として設置した。これにより令和3年度から毎週金曜日、同大学の総合診療医1名が外来診療を行っている。以上により医師2名以上を確保し目標を達成した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
◎部局目標3					
伊賀地域の二次救急医療体制の充実、確保に貢献する。	当番日における二次救急患者の 確実な受け入れ	<p>〈現在の状態〉 救急当番時間帯における依頼に対する受入率は約99%となっている。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 受入率99%を維持する。</p> <p>※目標が達成した状態 二次救急患者の治療開始までの時間短縮により、救命率向上や後遺障害軽減につながる。</p>	<p>・受け入れできなかった事例があれば、翌月の院内会議で妥当性を検証する。その積み重ねによって受け入れできない事例を減少させていく。</p>	▶ 3	2月末時点の時間外救急受入実績は2,198人で昨年同月より23%増加した。救急を担う常勤及び非常勤医師や看護師をはじめとする多職種が連携して取り組み、受入率99%を維持し目標を達成した。
◎部局目標4					
健診によって疾病の早期発見と早期治療に繋げ、重症化を予防する。	要精密検査・要治療判定者を当院へつなぐ	<p>〈現在の状態〉 健診センターの大腸検査で要精密検査判定となった受診者に対して、当院での精密検査を勧めているが、受診率は概ね50%となっている。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 受診率を55%とする。</p> <p>※目標が達成した状態 患者が身近なところで精密検査を受け、疾患等の早期発見、早期治療ができる。</p>	<p>・健診センターの魅力向上 ・当院での受診の利便性のアピール</p>	▶ 2	当院で大腸検査を受けた5,197人のうちE判定が710人で、そのうち2月末までに精密検査を受けたとの回答数は151人。 151人のうち当院を受診したのは63人(約42%)で目標の55%を下回った。
◎部局目標5					
新型コロナウイルス感染症に対する感染防止対策を徹底し、一般医療と新型コロナウイルス感染症の医療を両立させて地域医療を守る。	新型コロナウイルス感染症への対応による地域医療への貢献	<p>〈現在の状態〉 院内感染対策の取組により、これまで院内感染を発生させていない。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 院内におけるクラスターの発生を0件とする。</p> <p>※目標が達成した状態 患者が安心して治療を受けることができる。</p>	<p>・院内感染対策の徹底 ・感染防護具の十分な確保 ・国・県補助金の確保 ・ワクチン接種(医療従事者等、市民)の実施</p>	▶ 4	発熱外来の患者や保健所から依頼のあった濃厚接触者など3,031件の検査を実施した。 感染者の重症化を防ぐための抗体カクテル療法を、他病院に先駆け外来での実施を行った。また、呼吸療法を行うネーザルハイフローや、院内感染対策を強化するための陰圧パーテーション等の機器を設置した。 また、職員に対して繰り返し注意喚起を行い、感染対策の徹底に取り組んだ。 これらの取組により、患者及び職員からの持ち込みによる院内感染及びクラスターの発生を防ぎ、通常どおり病院運営を継続することが出来た。